

## 神郷校区まちづくり懇談会 開催結果報告書

開催日時 平成30年9月25日(火) 19:00~20:50  
場所 神郷公民館  
司会・進行 橋本<sup>さとのり</sup>憬範  
参加者数 計 男 77人 女 21人 合計 98人



### 1. 市の重点事業に関する質問

質疑応答(要約) 特になし

### 2. 連合自治会共通の市政課題

質疑応答(要約)

- 藤原連合自治会長 現在、台風等大雨時は郷山一帯で降った雨が水路から溢れ、公民館周辺が水で浸かってしまうため公民館が避難所として使用できず、小学校体育館が避難所となっている。小学校体育館には毛布程度しか配備されておらず、情報を得る手段として必要なテレビもない。また、間仕切りもないのでプライバシー面で支障がある。そのほか、空調設備がなく、風雨のため暑くても窓を閉め切った状態にしないといけないなど、機能的に避難所として不十分である。マルヨシセンター北側の水路についてはほぼ整備が完了しているが、公民館南側については未整備となっている。順次上流に向かってボックスカルバート等を整備し、溢れている水を取り込んでいただきたい。
- 回答(環境部長) 公共下水道の雨水対策としては、事業計画区域に入ることによって整備ができるということをこれまで御説明してきたが、昨年度末にJRのところまで区域を拡大し、整備することができるようになった。現在、公民館前のルートの実地調査について検討を進めている。この設計が出来上がり次第、来年度から管の整備に着手したい

と考えている。今の段階では神郷公園の前までの整備が3年程度かかる見込みである。国の交付金により事業を進めていくが、公民館が台風時に安全に使用できるよう事業要望をしていく。

○白井住宅自治会長 江の口雨水ポンプ場に至るボックスカルバートについて、その集水範囲はどのようになっているか。

○回答（環境部長） 郷からの水路の北側となるが、お示ししている航空写真の範囲がすべてではなく、その西側の分もある。

○白井住宅自治会長 ボックスカルバートで受ける範囲はどのようになっているか、後日連合自治会に提示していただきたい。

※後日、神郷公民館の柴田館長をとおして、下水道建設課の作成した「江の口排水区区域図」を校区の定例自治会長会で配布した。

### 3. 校区課題

【課題名：有害動物の駆除について】

質疑応答（要約）

○落神自治会長 落神自治会では以前からイノシシやニホンザルが農作物を荒らしたり、住宅敷地内に侵入したりする被害が多く、困っている。対策として市では狼煙の配布や電気柵の設置への補助、捕獲のために檻を設置していただいたりしているが被害は一向に減少していない。有害動物の個体数を減らすような対策をしなければ効果がないと思う。新居浜市の猟友会の会員は高齢化等で会員数が減少しているとお聞きしているが、他市の猟友会に駆除をお願いする等、駆除のための根本的な対策に取り組んでいただきたい。

○回答（経済部長） 有害鳥獣の被害対策として、駆除は有効な対策の一つと考えており、神郷校区においても駆除隊を編成して出没場所に、くくりわな、箱わなをそれぞれ10箇所程度を設置して駆除に取り組んでいる。駆除実績は、平成27年度に56頭、平成28年度に53頭、平成29年度に36頭、平成30年度は9月20日現在で31頭捕獲している。鳥獣の生息数については、平成28年に環境省が全国のニホンジカ及びイノシシの個体数の推定を行っているが、直接計測することは困難であるため、実際の個体の増減については正確に把握できないのが実情である。また、分布状況については、狩猟や駆除の捕獲場所や捕獲数から、里山周辺に広がりつつあると考えている。捕獲活動だけでは有害鳥獣の人里への侵入を防ぐことが出来ないため、まずは有害鳥獣が出没しにくい環境をつくっていただきたいと考えている。例えば、人里へ引き寄せる原因の一つとなっている農地の野菜くず、生ごみ等を回収したり、鳥獣が身を隠さないように草を刈るなど、地域ぐるみで鳥獣の生息域と人里をすみ分けるための環境づくりに努めていただきたいと考えているので、対策等について市役所農林水産課までご相談いただきたい。また、農作物被害防止のため、今年度から新たな補助制度として、防護柵等設置補助事業に取り組んでおり、県や国の採択条件に満たない個人の方、自家消費の方も

対象となる。ワイヤーメッシュ、防護柵を設置する場合、資材購入費の2分の1を補助し、限度額5万円と制限があるが、ホームセンター等で防護柵等を購入する前にご相談いただきたい。有害鳥獣対策については、全国的にも重要課題となっているが即効的かつ決定的な対策が見いだせていない状況である。愛媛県知事と県内全市町長が連携施策について協議を行う、県・市町の連携推進における検討施策の中に、イノシシ等が市街地に出没した場合の協力体制の構築が設定されているので、今後、新居浜市においても新居浜警察署、愛媛県、市内猟友会などの関係機関とこれまで以上に連携を強化して取組を進めていきたいと考えているので、有害鳥獣捕獲活動へのご理解及び人里へイノシシなどを出没させない地域環境づくりにご協力をお願いしたい。

- 上郷自治会長 対策として治良丸、大生院、大島、東田において電気柵等いろいろされているが、市としてその追跡調査はどうなっているか。
- 回答（経済部長） 農作物の被害防止に一定の効果は認められている。捕獲箱については、イノシシも警戒して入りにくくなるというものもある。今はくくりわなの方が効果があるので、出没場所にくくりわなを設置して捕獲していくのが効果的である。全頭駆除という御提案もあるが、人員や手法等慎重に検討する必要がある、今後の課題とさせていただきます。
- 自治会長 想定でどのくらいの数が出て、どのくらい駆除しているのか。
- 回答（経済部長） イノシシは平成27年度が191頭、平成28年度が240頭、平成29年度が259頭、今年度は9月末現在で150頭駆除している。環境省が発表している平成27年度末のイノシシの推計個体数は約94万頭で、日本全体で見ると減少傾向にあるとの報告が出されている。

**【課題名：川東地区の南北を繋ぐような道路整備の長期的計画について】**

質疑応答（要約）

- 白井住宅自治会長 現在、川東地区には東西の幹線道路として南から城下通り、平和通り、敷島通り、昭和通りがある。これらを南北に繋ぐ道路は、幅員が狭く、離合困難な箇所が多々ある。道路整備は長期的な視点に立った計画があつてこそ実現できると思うが、今後の整備計画について伺いたい。
- 回答（建設部長） 今のところ全体を見渡してこうなるという計画はできていない。現在、川東地区を東西に繋ぐ都市計画道路は、沢津桜木線、宇高西筋線、港町松神子線の3路線となっている。このうち片側1車線で整備できているのが沢津桜木線である。都市計画道路となれば市民の皆様のご要望、道路整備によるいろいろな効果等を勘案して特に重要と判断される路線から優先して着手をすることになっている。この都市計画道路は昭和の前半から計画をしたまま、まだ半分くらいしか出来上がっていないのが現状である。その中で、今年度から宇高西筋線から高津小学校までの間について事業化をして着手したところである。今後は県等と協議を行い、宇高西筋線の残区間について事業化の

道筋をつけていきたいと考えている。上部地区では上部東西線を整備しているが、川東地区では宇高西筋線の整備を優先して進めていく。

【課題名：自治会加入の促進とごみ問題について】

質疑応答（要約）

- 下郷自治会長 自治会加入者の高齢化と自治会員の年々減少の問題がある。新築世帯や転入者に直接加入のお願いに行っているが、なかなか効果が得られない。アパートやマンションが増えているがほとんどの方が加入していないようである。自治会に加入しない主な理由は、メリットがない、役員を引き受けなければならない、自治会に入らなくても困らないということである。自治会員が減少すると自治会行事や公民館行事が十分できなくなる。また、災害がおこったときに安否の確認や救助にも支障が出てくる。ごみステーションの管理を自治会でやっているが、地区外の人が収集できないごみを捨てていく等の問題にも有効な手立てがなく困っている。自治会に入会しないとごみステーションを利用できないというような厳しい対策をしないと自治会に入会してもらえないのではないかと思う。自治会に入ることでメリットがあるというような仕組みづくりを考えることはできないか。また、新築世帯には自治会に入会してもらえよう、市としても何か対応をしていただきたい。
- 回答（環境部長） ごみステーションの設置及び管理は、自治会などで行っていただいているが、地域によっては会員以外の利用を制限したり、条件付けを行ったりしているところもあるとお聞きしている。市には、ごみを収集し、処分する責任があり、衛生的な生活環境を維持するため、分別ルールを守っていただいたごみは全て速やかに収集することが重要だと考えている。居住地域でごみ排出ができなくなれば、不法投棄や通りがかりの他地区のステーションにルールを守らずごみを捨てていくなどの不適切な行為につながるおそれもあるため、生活ごみはその居住地域のステーションで排出できる体制が大切と考えている。市としては、まずは自治会加入を勧めているが、非加入世帯に対しても、ごみの排出ルールを守り、ステーション管理者の指示に従って出すようお願いしている。今後も、ごみの排出ルールの広報、啓発に努め、不適切な排出の防止に努めていきたいと考えている。
- 回答（市民部長） 自治会加入については、全国的に人口の減少や超高齢化、共働きなどの生活の多様化などにより自治会活動を取り巻く環境は非常に厳しい状況となっており、自治会加入率の改善策も即効性のあるものが見当たらない状況である。良好な地域コミュニティを支えるためには、自治会活動は欠かせないものであるが、近年、本市も含め全国的に自治会加入率が減少している。市としては、平成26年度から防犯灯の電気代を負担したり、地域コミュニティ再生交付金を交付して地域で活動していただいたり、ふれあい敬老事業交付金の交付など、自治会への財政負担を続け、自治会活動の活

性化を図っているところである。現在、市連合自治会内においても、高齢者に対する自治会費の減免や役員の負担軽減、地域行事の縮小などについての議論を行っている。また、連合自治会のほうから宅建協会にお願いして新たにアパート、マンションに入居する方に自治会加入の促進をしていただいている。また、単位自治会長を対象にした自治会活動の現状についてのアンケート調査を行っている。今後は、これらの議論の経過や地域の声を踏まえながら有効な支援方策の確立と持続可能な組織づくり、自治会組織の機能の充実を市と自治会とで協力して進めていきたいと考えている。

- 東楠崎自治会長　ごみステーションを自治会員が当番制で管理しているが、自治会外の人を通りすがりに未分別や回収日以外のごみを捨てていくため、当番の人がそれを自宅へ持ち帰り、仕分けをして出し直している。地区外の自治会外の人が捨てた未分別のごみは、そのまま置いておいた場合、市に連絡したら回収してくれるのか。
- 回答（環境部長）　ごみ減量課に連絡いただいたら回収できる。
- 松神子団地自治会長　自治会組織が弱体化してきており、危機感を感じている。今後どのようにしていけばよいのか。
- 回答（市民部長）　自治会組織の弱体化は全国的な問題であり、本市としても大きな問題である。防災や防犯は自治会にとって一番大きな役割で、これらがメリットである。このほか、ごみステーションの管理や見守りなど地域の活動を担っている。今後、自治会の存在意義の強化が必要である。市からも地域コミュニティの活性化交付金を交付し、地域の皆さんに地域課題の解決について話し合いを持ったり、一緒に汗をかいて活動していただいたりしているが、そういったことを地道にしていくことによって地域の絆が強まったり、人間関係が強固となっていく。このようなことによって自治会の存在意義を強化していくことが長期的には加入率の改善にもつながっていくと考えている。いただいたご意見を踏まえ、今後市の連合自治会とも話し合いながら進めていきたい。

#### 4. その他

##### 【神郷幼稚園について】

##### 質疑応答（要約）

- 松神子自治会長　神郷幼稚園が廃園となるといううわさを聞いたが、神郷幼稚園の今後の方向が決定してから地元に伝えるのではなく、地元の意見を聞きながら検討してほしい。
- 回答（教育委員会事務局長）　神郷幼稚園の存続に関する検討会については、現在設置しているのは学校のあり方に関する検討会で、今後、10年、20年先を見据えて新居浜市全体の学校の適正規模や適正配置がどうあるべきかを検討するための委員会となっている。この委員会の中で、王子幼稚園と神郷幼稚園の2園の公立幼稚園についての協議も行っている。王子幼稚園は定員が280人のところ51人、充足率が18.2%、神郷幼稚園は定員が200人のところ51人、充足率が25.5%と大変低い状況と

なっている。今年度は2回検討を行っており、検討内容としては、幼児教育の整備として幼稚園、保育園の枠組みだけでなく、認定こども園も加わり、また、来年5月からの幼稚園の保育料無償化が示されている現状を踏まえ、今後新居浜市として望ましい幼児教育はどうあるべきかといったさまざまなご意見をいただいているところである。神郷幼稚園からは木下園長に出席いただき現状をお聞きしているが、神郷幼稚園の特徴として、従来から地域との繋がりがあり、地域の中の幼稚園として地域の皆様に大変可愛がって育てていただいております、子供達も地域の方々と触れ合うことによって大きく成長していると伺っており、ご協力に感謝している。このような検討や教育委員会の定例会、庁内において検討を行っていく予定なので、その検討の中で地域の皆様にもご意見をいただく場があるかと考えている。